

阿岐のまほろば

Vol. 13

この穴いったい何の穴？

にしもと ごういせき たかやちょうきねはら
西本7号遺跡 (高屋町杵原)



西本7号遺跡全景

西本7号遺跡は、高屋町^{きねはら}杵原に所在し、学校のグランド造成事業に伴い、平成10年3月から4月まで発掘調査を行いました。

調査の結果、弥生時代の^{たてあなじゆうきょ}竪穴住居1軒と、古墳から中世の遺構(土壇・溝状遺構・柱穴)が多数見つかりました。

この遺跡の全体を眺めてみて目を引くのは、一列に並んでいる素掘りの穴(土壇)でしょう(写真中央付近)。穴と穴の間は10~50cm程しかありません。穴からはほとんど遺物が出ておらず、時代もよく分かっていません。ゴミ穴・墓穴……一体

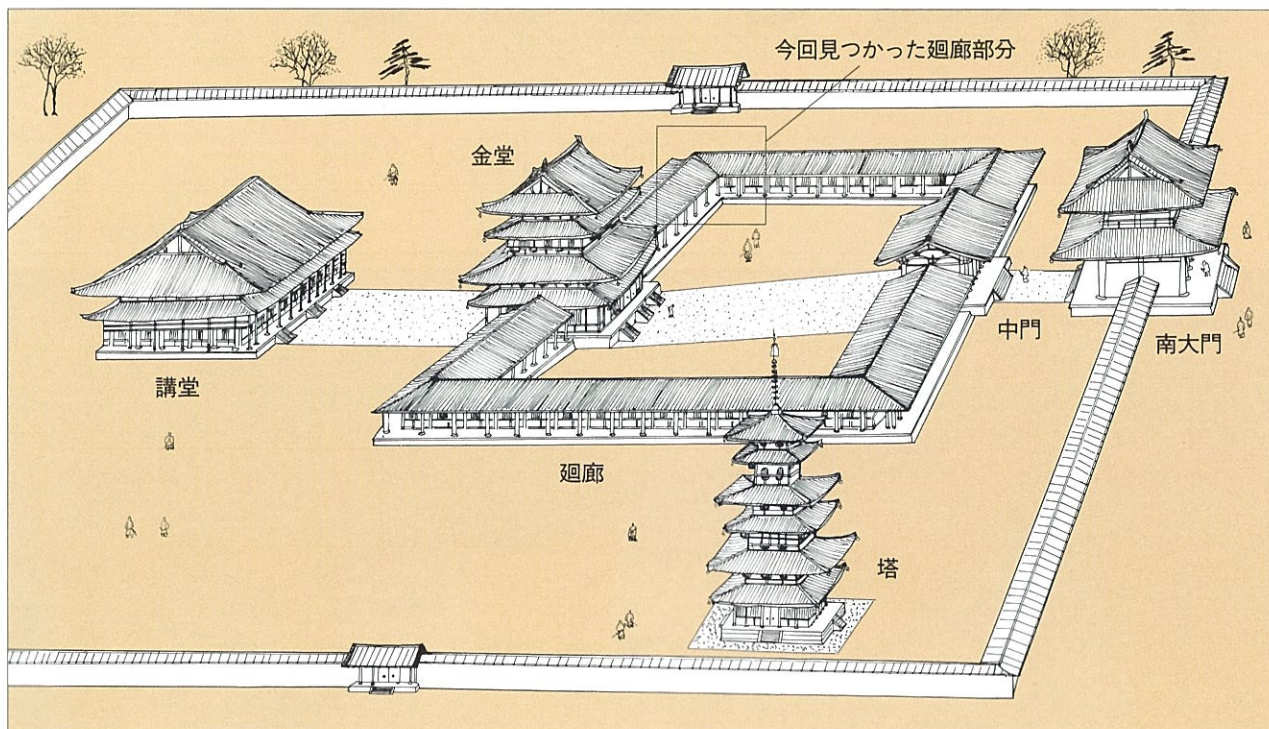
この穴は何に使ったのでしょうか。



西本7号遺跡位置図 (1:50,000)

瓦が語る安芸国分寺

史跡安芸国分寺跡 (西条町吉行)



第1図 安芸国分寺伽藍の推定復元図

西条町吉行の史跡安芸国分寺跡では、平成9年9月から11月にかけて発掘調査が行われ、膨大な量の瓦や須恵器、奈良時代のものさしなどが出土し、安芸国分寺の実態を明らかにする手がかりの発見が相次ぎました(本誌Vol.11『天平の甍』およびVol.12『出土した天平尺』で紹介しています)。

また、今回は廻廊の北東隅と考えられる箇所が見つかり、国分寺の中心伽藍に約四半世紀ぶりに調査のメスが入ったという点でも特筆される発掘調査であったといえるでしょう。

出土した瓦たち

建物の屋根を飾っていた瓦は、大きく分けて2種類あります。筒を半分にしたような丸瓦とゆるやかに湾曲する平瓦です。これらの瓦は軒先に葺かれる部分には模様が付けられており、それぞれ軒丸瓦、軒平瓦と言います(写真1)。

安芸国分寺跡では、これまでに軒丸瓦が6種類、軒平瓦が3種類確認されています。今回はそのうち、軒丸瓦の2種類、軒平瓦の1種類が良好な状態で出土しています。

写真2の軒丸瓦の模様は、仏教において聖なる花(華)といわれる蓮の花をデザイン化したものです。安芸国分寺が建てられた当初のもので8世紀中頃(約1,250年前)のものでした。

写真3の軒丸瓦は、円をモチーフとした重圏文という模様を使っています。

写真4の軒丸瓦の模様は、これまで知られていなかったもので、今回新たに発見されました。やはり蓮の花ですが、模様が簡略化されているため、これまでに見つかったものと比べて、新しいのではないかと考えられます。

写真5の軒平瓦の模様は、蔓草が絡みあう様子をデザイン化したもので唐草文と呼ばれています。



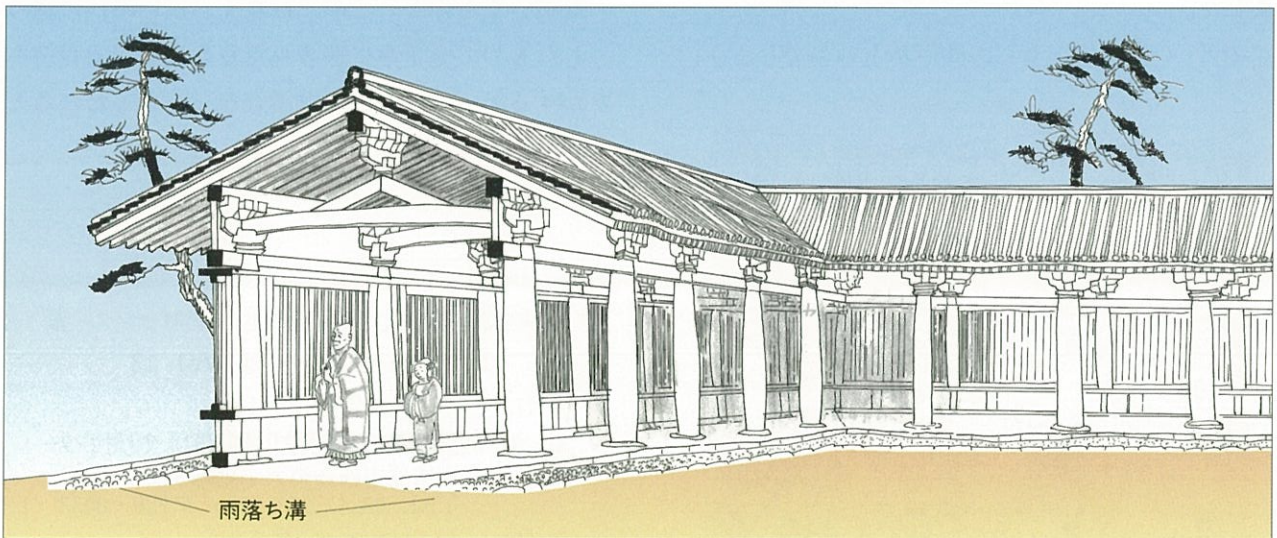
いずれの瓦も仏教的要素が強く感じられるもので、国家の安泰を祈願した聖武天皇の祈りが屋根瓦の模様にもまで反映されているかのようです。

よみがえる廻廊

国分寺の中心伽藍は、本尊を安置する金堂とそれを取り巻く廻廊、そして中門から成り立っています。安芸国分寺跡の金堂跡と中門跡は昭和44～46年の発掘調査で、すでに確認されていましたが、廻廊跡は今日まで未確認でした。しかし、今回の

調査では、初めてその北東隅と考えられる部分が確認されました(写真6)。

廻廊跡は、建物本体の構造を窺わせる遺構はありませんでしたが、外側に巡る雨落ち溝が見つかりました。溝の中には多量の遺物が詰っており、廻廊が壊れた際に流れ込んだものなのでしょう。ここから出土する瓦や土器は、廻廊の壊れた年代を示しており、国分寺の栄枯盛衰を物語る貴重な証言者といえるのではないのでしょうか。



第2図 廻廊の想像復元図

井戸は井戸でも……



素掘り井戸



石組井戸

鴻巣東遺跡は、西条町大字下見に所在する江戸時代の屋敷跡です。県道の改良工事に伴って平成9年1月から平成10年5月まで発掘調査が実施されました。

3年次の調査で数多くの溝やごみ捨て穴、柱穴などが見つかっています。出土遺物から、遺跡の最盛期は、江戸時代の終わり頃にあったことが考えられます。

上の2枚の写真は屋敷に伴う井戸の跡です。左は素掘りの井戸、右は石組の井戸です。どちらの井戸も使われなくなった後、一気に埋められました。

では、いったいどちらの井戸が古いのでしょうか。



鴻巣東遺跡位置図 (1:50,000)

一見、素掘りの井戸の方が古い時代に使われていたように見えますが、実は石組の井戸の方が早く造られ、しかも長い間使われていました。

素掘りの井戸は大きなものですが、井戸わくがないため、崩れやすかったものと思われ、短期間で使用されなくなったようです。

出土遺物からみて、石組の井戸は、江戸時代半ばの18世紀前期までに造られ、最近まで使われ、素掘りの井戸は、江戸時代末期の18世紀末から19世紀前期に造られ、まもなく埋められたようです。

この井戸の例のように、古いものがすべて粗末な劣ったものというのではなく、古い時代に造られたものでも丁寧に造られたものは丈夫で長持ちがするということが発掘調査からもよくわかります。

(財)東広島市教育文化振興事業団 文化財センター報

阿岐のまほろば Vol. 13

発行日 平成10年7月31日

編集 財団法人東広島市教育文化振興事業団 文化財センター

発行 東広島市西条町大字馬木541-1
TEL 0824-25-3880 〒739-0033

印刷 電子印刷株式会社